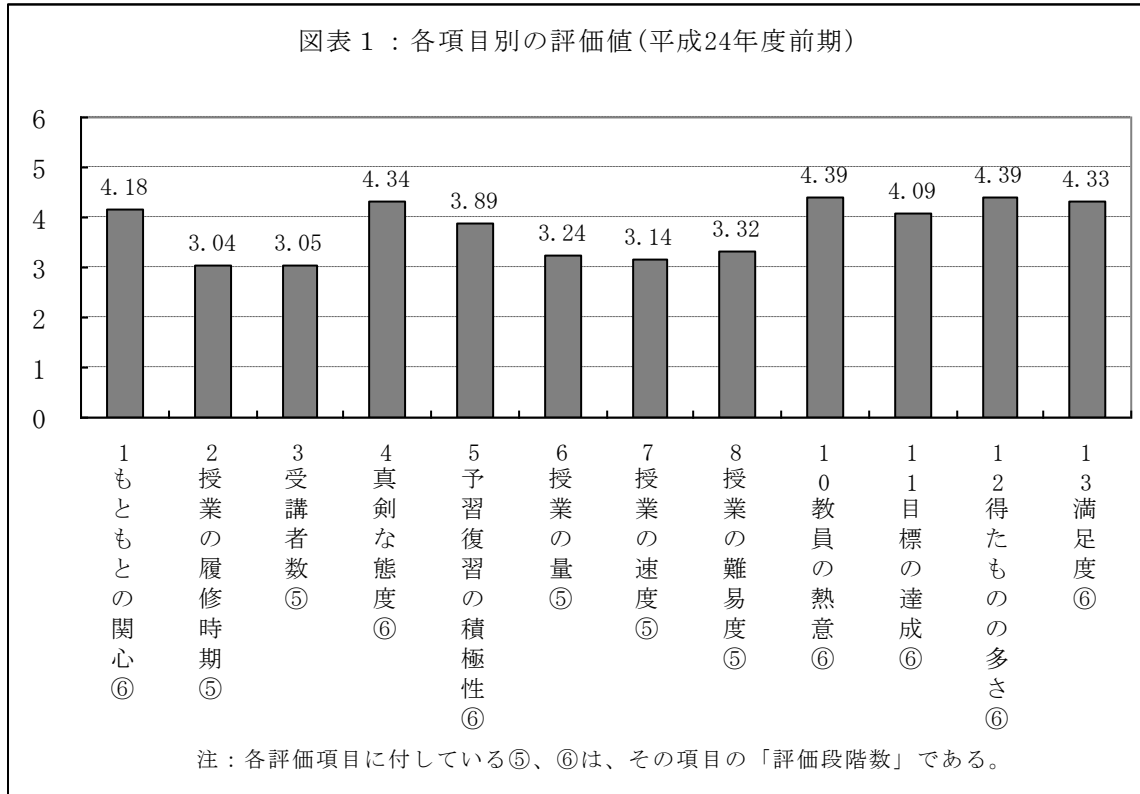


平成 24 年度前期 授業評価アンケート結果まとめ

平成 24 年 11 月 5 日

宮古短期大学部 教務・学生委員会

1. 宮古短期大学部の総合的集計結果



図表 2 : 24 年と 23 年の項目ごとの評価値の比較

	24 年	23 年	23 年から 24 年へのプラス評価の増減
1. もともとの関心⑥	4.18	4.12	0.06
2. 授業の履修時期⑤	3.04	3.06	0.02
3. 受講者数⑤	3.05	3.17	0.12
4. 真剣な態度⑥	4.34	4.22	0.11
5. 予習復習の積極性⑥	3.89	3.80	0.09
6. 授業の量⑤	3.24	3.26	0.02
7. 授業の速度⑤	3.14	3.14	0.00
8. 授業の難易度⑤	3.32	3.32	0.00
10. 教員の熱意⑥	4.39	4.38	0.01
11. 目標達成⑥	4.09	3.94	0.14
12. 得たものの多さ⑥	4.39	4.29	0.10
13. 満足度⑥	4.33	4.31	0.02

注：6 段階評価項目では、評価値が増加していれば、プラス評価も「増加」になる。

5 段階評価項目では、「3」に近づいていけば、プラス評価は「増加」になる。

平成 24 年度前期の授業評価の総合的結果を図表 1 に示す。

質問項目のうち、「2.授業の履修時期」「3.受講者数」「6.授業の量」「7.授業の速度」「8.授業の難易度」の 5 項目は 5 段階評価(グラフでは、項目の末尾に⑤と表記)である。「1. もともとの関心」「4. 真剣な態度」「5.予習・復習の積極性」「10.教員の熱意」「11.目標の達成」「12.得たもの多さ」「13.満足度」の 7 項目は、6 段階評価(グラフでは、項目の末尾に⑥と表記)である。

5 段階評価の評価項目では、「受講者からみて妥当」と思われる場合の評価値は 3 である。この評価値 3 から離れるほど、「受講者の人数が多い・少ない」などの評価となり、「受講者にとっての妥当性がより少ない」こと示している。

6 段階評価の評価項目では、評価値 4~6 が肯定的評価、評価値 1~3 が否定的評価となり、評価値が高いほどより肯定的な評価、評価値がより低いほど否定的な評価となっている。

平成 24 年度前期の授業評価の全体評価として、「5 段階評価」の項目では、「2.授業の履修時期」、「3.受講者数」「6.授業の量」「7.授業の速度」「8.授業の難易度」の 5 項目の評価値が 3.04~3.32 と「中間値」の 3(=「最も妥当」)の近くにあり、おおむね妥当な評価を得ている。

6 段階評価の項目では、「1.もともとの関心」、「4.真剣な態度」、「5.予習・復習の積極性」、「8.教員の熱意」、「11.目標の達成」、「12.得たもの多さ」の 5 項目(「5.予習・復習の積極性」以外)は、肯定的評価の 4 以上にあり、おおむね肯定的な評価を得ているといえる。

また、平成 24 年度の評価値を前年度からの変化で見ると、13 項目のうち 11 項目で「プラス評価が増加」、2 項目で「増減なし」である。評価した学生の違いがあるとは言え、24 年度の「学生による授業評価」は前年度より総合的に見て上昇したと言える。

2. 個別集計結果の特徴

(1) 「分かりやすさ」に関する評価

宮古短期大学部では、モットーとして「分かりやすい授業」を掲げており、このことに関して、5 段階評価の授業の「8.授業の難易度」、「6.授業の量」、「7.授業の速度」の項目と 6 段階評価の「10.教員の熱意」、「11.目標の達成」、「12.得たもの多さ」、「13.授業への満足度」の項目、および選択形式の「9.教員に求める改善」が評価の対象となる。

5 段階評価の授業の集計票の元データによれば、3(=「最も妥当」)の評価をしている学生の割合が、「8.難易度」では 64.0%(前年度同期は 59.1%、以下同じ)、「6.授業の量」では 74.8%(71.3%)、「7.授業の速度」では 78.8%(76.3%)といずれも 60~70%台と高い。また前年同期比も、いずれも高くなっている。

6 段階評価の授業についても、「10.教員の熱意」4.39(4.38)、「11.目標の達成」4.09(3.94)、「12.授業で得たもの」4.39(4.29)、「13.授業への満足」4.33(4.31)と、いずれも「微増」ではあるが前年より増加している。

以上のことから、「わかりやすい授業」が着実に進展していると思われる。

また、教員に求める改善では、「改善を求める項目の 1 位」に指摘されている上位 3 項目は、23 年度も 24 年度も、「教員の話し方」、「教材や板書の使い方」、「授業内容の構成」の三つである。ただし、対前年度比では、「教材や板書の使い方」が 0.9 ポイント減(7.2%←8.3%：今年度←昨年度。以下同じ)、「授業内容の構成」が 2.2 ポイント減(4.8%←7.0%)であるのに対し「教員の話し方」は 2.4 ポイント増(9.6%←7.2%))である。

(2)学生の取り組みの評価

学生の取り組みの評価としては、6段階評価の「1.もともとの関心」「4.真剣な態度」「5.予習・復習の積極性」「11.目標達成」の項目が評価の対象となる。

図表2で、この4項目の評価値をみると、「1.もともとの関心」は4.18(4.12)、「4.真剣な態度」は4.34(4.22)、「11.目標の達成」は4.09(3.94)で、いずれも「4」を越え、また前年度より増加している。それに対して、「5.予習・復習の積極性」は3.89(3.80)で、前年度よりは増加(微増)しているものの評価値は5項目の中で、唯一「4」を下回っている。また、元データで見ると、1から6までのなかで回答率が最も高いのは「否定的評価」である「3」の34.0%(33.7%)であり、対前年比でも微増しており、改善が求められる。

今後の課題

以上にみたように、「わかりやすい授業」への取り組みについては、関連するほとんどの「評価項目」の「評価値」が上昇傾向にあり、着実に進んでいると言える。

今後の課題(データからみる限りではあるが)としては、上記で見ように、「5.予習・復習の積極性」であり、改善が望まれる。